

リーディングDXスクール事業【実践事例】

多度津町立多度津中学校（香川県）【指定校】

【取組内容】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

【教師主体の一斉授業から生徒が主語の授業への教職員のマインドセットの変化】

生徒に学び方などを選択させること、教科書を見ながら自分で学びを深めることなど、生徒に選択させる場面をできるところから取り入れてみようと実践を積み重ねる。

【生徒一人ひとりが教科の見方・考え方を発揮する授業研究】

同教科等で指導案を持ち寄り、指導案を練り合う。授業終末の生徒の姿を共有し、指導方法や活動の提案を行っている。また授業参観を通して、再度検討し研究授業に臨む。



【グループでの課題解決の中で、生徒が学んだ知識やスキルを使って学び合う】

生徒は他の生徒と授業で学んだ用語を用いて自分の考えを伝え合い、グループとしての考えを練り上げるというやり取りをする。

【生徒が自分の学習を進め、教師が適切なフィードバックをする】

生徒はメタ認知や自己調整を繰り返すことで、自分の学習を進め、教師はそれに対して適切なフィードバックをする。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

多度津町立多度津中学校（香川県）【指定校】

【取組内容】「子どもが主語となる授業づくり」が子どもの情報活用能力を育成する

取組の背景 子どもの現状を変えるべく、子どもが主語となる授業づくりを行った。その一つの手段として、単元内自由進度学習を利用した。授業を子どもに委ね、単なる知識の伝達の授業から、学び方を生徒が学ぶ授業へ転換していくと、結果的に情報活用能力を育成していることが分かった。特に、本事例は、情報活用能力のうち、子どもが考えをアウトプットする活動である「考えを表現すること」、「自己の学びを振り返ること」に重点を置いている。

子どもの現状

- ・自分から学習を進められない生徒が多い。
（指示待ち人間が多い）
- ・新しいことにチャレンジすることには慣れている。

授業形態の現状

- ・一斉授業で手厚く、生徒は負担なく学べる。
- ・授業での忙しさ（生徒＜教師）教師は忙しいのに生徒一人一人の学びを捉えられていない。

これでは、社会に出てからも自分から学び続けられる人材の育成にはならない、、、。

これからの時代に必要な「子どもの理想の姿」「理想の授業の姿」を改めて問い直す

子どもの理想の姿

自分から学習を進められる生徒（自分で学びを調整できる生徒）→ より良い学び方を身に付けて社会へ

理想の授業スタイル

- ・子どもが主語となる授業
- ・子どもの学び方が述語となり、子どもが最適解を選ぶ。

単元の学習を子どもに委ね、学びを自己調整しながら学び方を身に付ける授業スタイルへ転換

単元内自由進度学習の実践

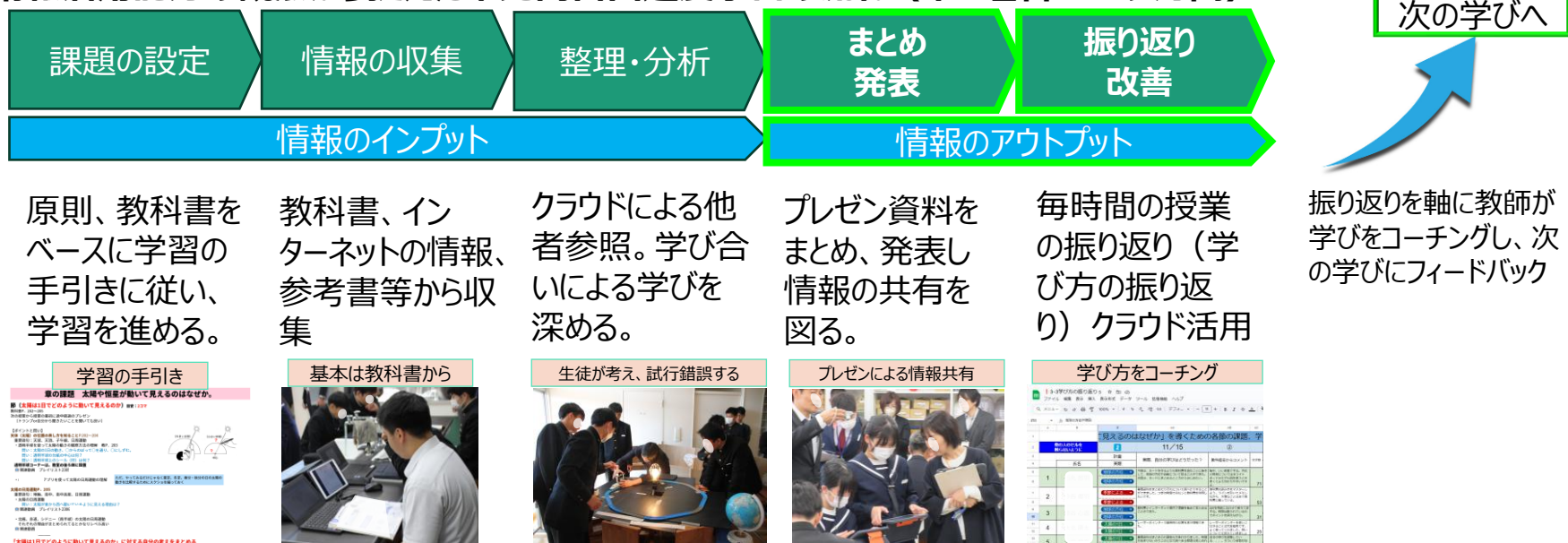
すべての単元で実践し、生徒が主語となる授業とはどのような授業スタイルなのかを日々の授業で実践を継続

リーディングDXスクール事業【実践事例】

多度津町立多度津中学校（香川県）【指定校】

【取組内容】 「子どもが主語となる授業づくり」が子どもの情報活用能力を育成する

情報活用能力の観点から捉えた単元内自由進度学習の流れ（中3理科：8ヶ月間）



重視したポイント 情報のアウトプット「まとめ・発表」「振り返り」自分を表現できる生徒の育成

重視したポイント 自分を表現できる生徒の育成のために情報のアウトプット「まとめ・発表」「振り返り」を重視

まとめ発表

単元の節ごとにプレゼン資料を作成し、授業の初めに発表する。生徒のプレゼンテーション力を育成する機会を意図的に作る。

振り返り改善

授業ごとに生徒は、自分の学び方を振り返る。教師は、授業中の生徒を見取り、振り返りに対して学び方をコーチングする。



Googleのスプレッドシートによる生徒一人一人の学習進度と振り返りは、常に学級全体に共有している。

2	11/15	②	
計画	実際、自分の学びはどうだった？	教科担任からコメント	文字数
実際			
地球の方位...	今回は、カードを作るよりも教科書を読むことに集中して、地球の方位や自転について知ることができた。次回は、カードにまとめるところからはじめたい。	集中、いい言葉ですね。方位と時刻についてはホワイトボードのモデル図を使うと大きくてより分かりやすいです。	71

リーディングDXスクール事業【実践事例】

多度津町立多度津中学校（香川県）【指定校】

【取組内容】 振り返りの活用～個の学びを見取り、生徒自身に自己の成長を実感させるための工夫～

【振り返りの時間の確保】

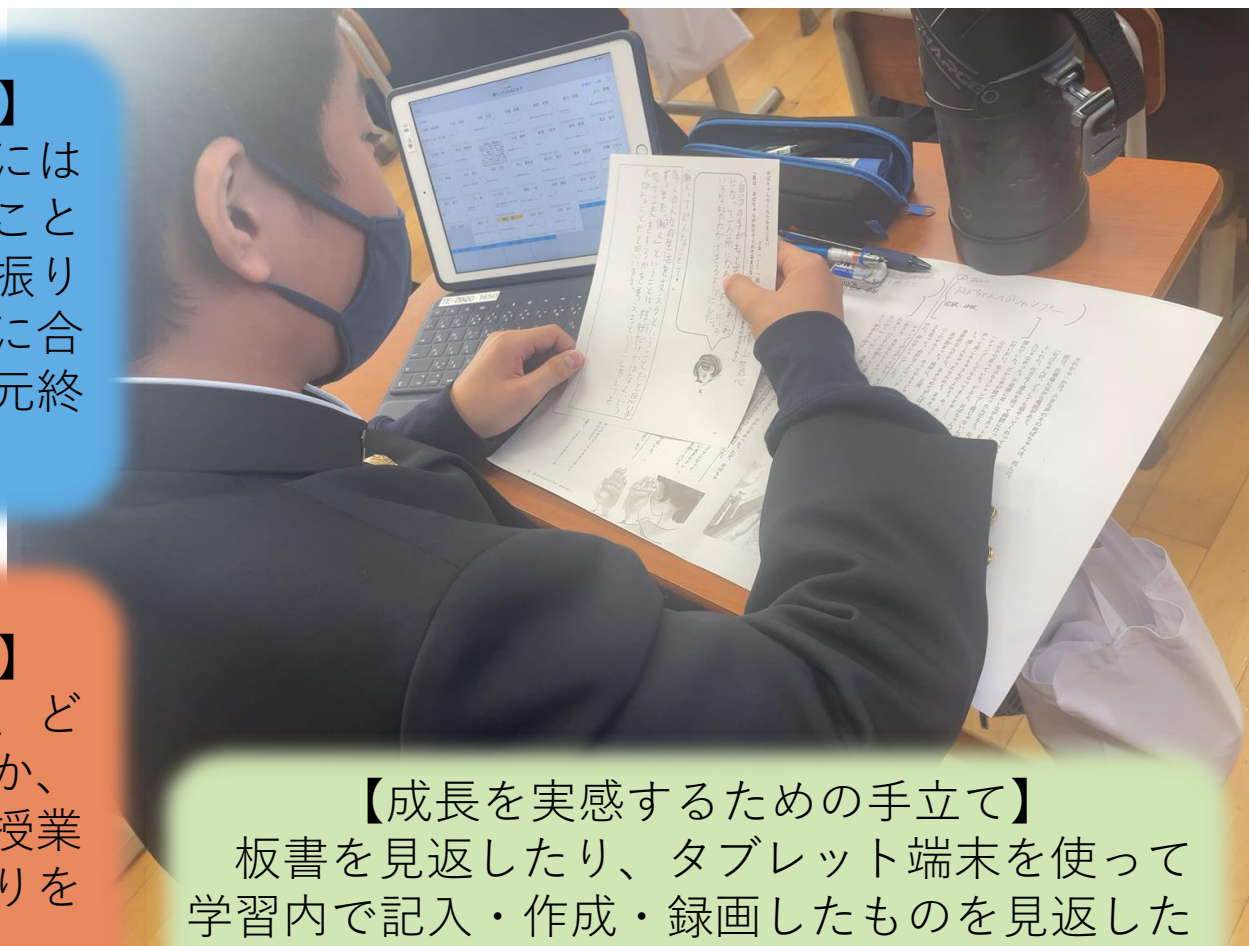
振り返りを記述させる際には最低5分は時間を確保することを全教科で統一して行う。振り返りの記述は、教科の特性に合わせて、各授業後または単元終了後に行っている。

【振り返りの記述の視点】

できるようになったこと、どのような学び方がよかったか、次の授業への意欲などその授業や単元に合わせて、振り返りを書く視点を提示している。

【成長を実感するための手立て】

板書を見返したり、タブレット端末を使って学習内で記入・作成・録画したものを見返したりすることで、1時間や単元の内容を見つめ直させる。また、過去に書いた振り返りを見返すことで単元を通した成長を実感できる。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

多度津町立多度津中学校（香川県）【指定校】

【取組内容】校務DX（GIGA環境を活用し教員の働き方改革につなげる取組）

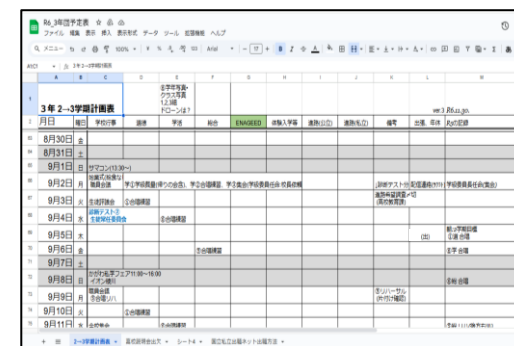
【取組1】Google Chatを利用した職員間連絡の効率化

Google Chatを使うことで、**情報共有の効率化とペーパーレス化**ができ、教職職員の負担を軽減できる。学年ごとにスペースを作成し、情報共有やコミュニケーションを円滑に行っている。全職員向けの連絡は「共同スペース」で、**機密性の高い情報はメンバーを限定した限定したスペース**で共有している。



【取組2】共有ドライブで業務の効率化

Google Workspaceスプレッドシートで学年団予定表、通知表の所見を作成することで、**いつでもどこでもアクセスできる**になり、必要な情報を探す手間も減った。また最新の資料を常に共有できるため、**資料の修正や追加が発生しても、再印刷・再配布の必要がなくなった**。県外の公開授業の視察の際にGoogle Workspaceスライドを使用して、研修内容をまとめたものを参加していない教職員と即時に共有した。



【取組3】公開授業研究会のデジタル指導案活用

町で本事業を受けることにより、教科の公開授業研究会や人権教育研修会の**指導案のペーパーレス化**が進んだ。印刷作業が不要になり、資料の準備時間が大幅に短縮された。職員会議につながる分掌の資料も学習支援ソフトで作成し、**デジタル化が進んだことで印刷コストの削減**にもつながっている。

11:30~12:20 一般授業研究(16クラス)国語・数学・社会・理科・美術・体育

【午後の部】
13:00~13:15 受付(1階玄関)

13:20~14:10 授業研究(1年音楽・2年道徳・3年理科)

14:20~14:55 授業討議(香川県教育委員会より御指導)

15:10~16:20 御指導・御講演
手井 孝子(ひらい とま)先生
文部科学省初等中等教育局 GIGAShOX 推進チーム

申し込みフォーム

多度津町立多度津中学校
〒764-0014 香川県仲多度郡多度津町本通2丁目11-55号
お問い合わせ先 教務 TEL (0877)33-2271

令和6年度リーディングDXスクール事業 多度津町立多度津中学校 公開研究会

校時	教科	単元・題材名	授業科目	授業者	指導者
10:30	数学	算数と図形	1年1組	1年1組	
11:20	国語	説話(昔話)の読みと書き	1年2組	1年2組	
	英語	英語の読みと書きの練習	1年4組	1年4組	
	保健体育	健康(1年生)の授業	1年5組	1年5組	
	保健体育	健康(2年生)の授業	1年6組	1年6組	
	英語	Project 1: Let's learn English	2年1組	2年1組	
	英語	Project 2: Let's learn English	2年2組	2年2組	
	理科	植物の観察	2年4組	2年4組	
	英語	Project 3: Let's learn English	3年1組	3年1組	
	英語	Project 4: Let's learn English	3年2組	3年2組	
	家庭	家庭(1年生)の授業	3年3組	3年3組	
	技術	プログラミングの授業	3年4組	3年4組	
	社会	社会(1年生)の授業	3年5組	3年5組	